

発電所だより

2024年11月号

女川原子力発電所2号機の営業
運転開始までの工程に係る情報を
ホームページで公開しています。
検査や作業の実績・計画を「週報・
日報」として掲載しています。



女川2号機が11月15日に「再稼働」

～14年ぶりに発電を再開しました～



女川原子力発電所長
阿部 正信

11月15日、女川原子力発電所2号機が14年ぶりに発電を再開し、再稼働しました。

再稼働という大きな節目を迎えられましたのも、立地自治体関係者の皆さまをはじめ、日頃より発電所運営を支えていただいている地域の皆さまからのご理解、安全対策工事に従事いただいた皆さまのご尽力のおかげです。改めて、関係された皆さまに心から感謝を申し上げます。

2号機は、2013年12月に新規制基準の適合性審査申請を行い、長期に及ぶ審査を経て、本年5月27日に安全対策工事が完了しました。再稼働に向けて一つひとつのプロセスを慎重かつ丁寧に進め、9月9日に燃料装荷

が完了し、10月29日に原子炉を起動しました。その後、原子炉内の中性子を計測する設備の一部に不具合が発生し、点検のため原子炉を停止しましたが、再発防止対策を講じた上で、再び原子炉を起動し、11月15日に再稼働しました。

今後は、営業運転開始に向けて、引き続き、安全確保を最優先に、各種検査や試験、作業などを着実に進めてまいります。

私たちはこの2号機の再稼働を新たなスタートラインとして、安定運転を通じて、「皆さまに電気をお届けし地域と社会の発展に貢献する」という使命を胸に、所員一同、心を一つに取り組んでいく所存です。

また、地域の皆さまには、さまざまな機会を捉えて当社の取り組みを分かりやすく丁寧にお伝えし、より信頼していただける発電所となるよう努めてまいります。

営業運転開始に向けて、安全確保を最優先に取り組んでまいります

2号機では再稼働後、各設備の状態などを確認し、11月24日に原子炉を一旦停止の上、設備の健全性確認を行っています。その後、再び原子炉を起動し、各種検査や試験を行い、原子力規制委員会による確認を経て、12月中に営業運転を開始する予定です。

原子炉起動および再稼働(発電再開)の様子を写真でご紹介します



「原子炉起動」(10月29日)

19時00分、2号機中央制御室で運転員がスイッチを操作し、原子炉を起動。

10月30日0時12分に核分裂が一定の割合で継続する「臨界」に到達

「原子炉起動の様子を報道機関に公開」(10月29日)

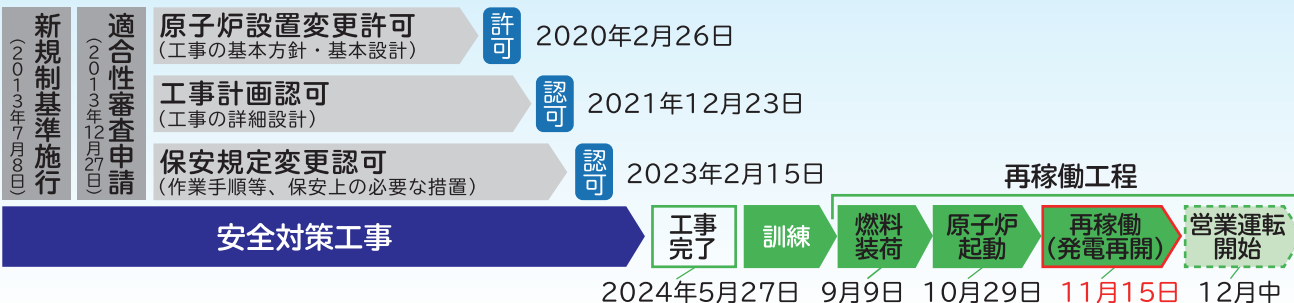
当社の取り組みを丁寧にお伝えするため、女川原子力PRセンターを会場に、起動操作のライブ中継を実施(19社41名が参加)



「再稼働(発電再開)」(11月15日)

原子炉で発生した蒸気でタービンと発電機を回し、運転員が操作の上、発電機を送電線に接続

■2号機の営業運転開始までの工程について



《「おながわ秋の収穫祭2024」に参加しました》

10月27日、「おながわ秋の収穫祭2024」が女川町海岸広場で開催され、当発電所からも所員22名が運営スタッフとして参加しました。

秋の収穫祭の名物の一つである「秋刀魚すり身汁」の提供をはじめ、ラジコンカー体験ブースの運営などをお手伝いし、地域の皆さまとの交流を深めました。



約4,000杯の「秋刀魚すり身汁」の提供をサポート



ラジコンカー体験ブースには約250名が来場

《女川原子力PRセンター「秋の収穫体験」を開催しました》

10月19日、20日、女川原子力PRセンターで「秋の収穫体験」を開催し、敷地内で大事に育てた、りんご、だいこん、さつまいもの収穫を体験していただきました。

また、エネルギーに関するクイズラリーやワークショップ「ハロウィンアレンジづくり」「ダンボールバスケット工作」も開催しました。2日間のイベントには約500名の皆さまにご参加いただき、秋の休日を楽しんでいただきました。



赤く実ったりんごを収穫する参加者



ハロウィンアレンジづくりを体験する参加者

《2号機の設備点検に伴う原子炉停止について》

11月3日、2号機の再稼働に向けた試験を行っていたところ、原子炉内の中性子を計測する設備の調整機器が動かなくなる事象が発生したことから、当該設備の点検のため、11月4日に原子炉を停止し、不具合箇所を復旧しました。地域の皆さま、関係の皆さまにご心配をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

当社としては今回の事象に係る再発防止対策を確実に実施し、今後、同様の事象を発生させることのないよう、引き続き、安全確保を最優先に取り組んでまいります。

＜本事象の詳細は当社ホームページで公開しています＞

■女川原子力発電所2号機における移動式炉心内計装系の点検結果に係る原因と対策について

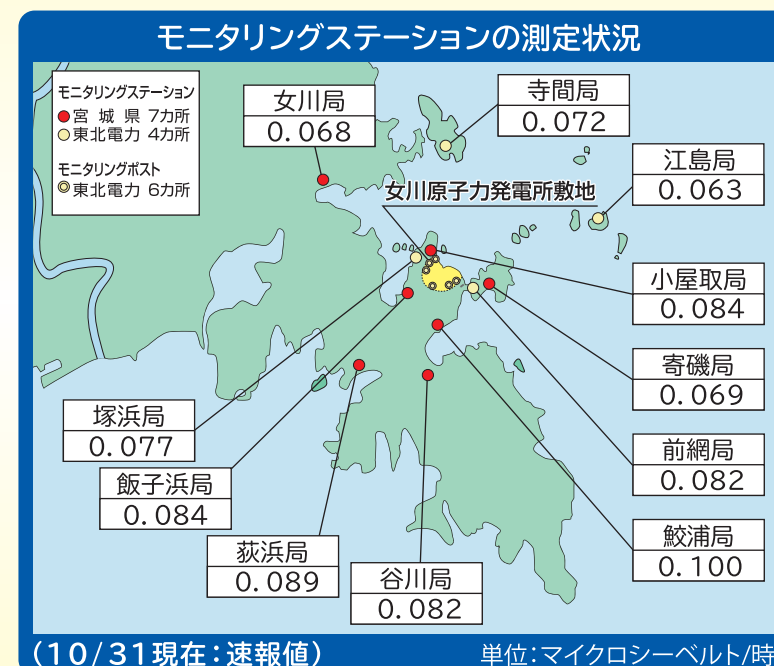
https://www.tohoku-epco.co.jp/news/atom/1245864_2549.html



《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの2024年10月31日の測定値は、最大で0.044マイクロシーベルト／時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 モニタリングポストの測定値は、宇宙線(宇宙空間を飛び交う高エネルギーの放射線)の影響分が含まれないため、モニタリングステーションの測定値より0.02～0.04マイクロシーベルト／時程度低い測定値となっています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。再生紙を利用しています

(参考) モニタリングポストの最小値と最大値※3

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	
2011年3月11日	0.027～0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年3月13日	1.8～21※4
〈地震発生から2年と至近2年の(4/1)値および前月値〉	
2012年4月1日	0.063～0.098
2013年4月1日	0.055～0.076
2022年4月1日	0.033～0.045
2023年4月1日	0.034～0.046
2024年10月1日	0.032～0.044
2024年10月31日	0.033～0.044

単位:マイクロシーベルト/時

